

介護人材の確保・養成・定着に向けた宮城県の取組とパイロット事業の実施について



宮城県保健福祉部

「アニメむすび丸 介護予防PR バージョン」

1 宮城県取組 ①宮城県介護人材確保協議会

- 設立：平成26年6月
- 目的：県内の介護関係団体等が参画し、介護業界全体として、介護人材確保の推進に向け、具体的な取組等を検討する。

構成団体

東北福祉大学	仙台市老人福祉施設協議会
宮城県社会福祉協議会 (宮城県福祉人材センター)	宮城県老人保健施設連絡協議会
介護労働安定センター宮城支部	宮城県認知症グループホーム協議会
宮城労働局	みやぎ小規模多機能型居宅介護連絡会
宮城県看護協会	宮城県生活協同組合連合会
宮城県介護福祉士養成施設協会	宮城県市長会
宮城県介護福祉士会	宮城県町村会
宮城県社会福祉士会	宮城県
宮城県老人福祉施設協議会	宮城県教育委員会

※パイロット事業の実施に当たっては、本協議会を活用（令和元年5月と令和2年2月に協議会を開催）

1 宮城県の実践 ②介護の魅力・イメージアップ普及

リーフレット：ケアヒーローズ

県内の新中学2年生に配布（約22,000部）



○内容

- ・介護の未来（ICTの活用等）
- ・介護職員へのインタビュー（マンガ）

- ・介護の仕事に就くまでのルート
- ・学生へのメッセージ

1 宮城県の実施 ③介護助手導入支援事業

宮城県

令和元年度新規事業

補助

- ・ 県内の9施設で実施
- ・ 事前説明会参加者385人
- ・ マッチングを行った人数230人



採用者数73人

介護分野に就労
意欲のある
・ 元気高齢者

応募

宮城県老人保健施設連絡協議会

- ・ 事業を実施するモデル事業所の選定
- ・ 事業の成果と効果の評価、分析
- ・ 成果報告会の開催、他事業所への普及啓発

事業所支援・情報収集
補助事業の取りまとめ

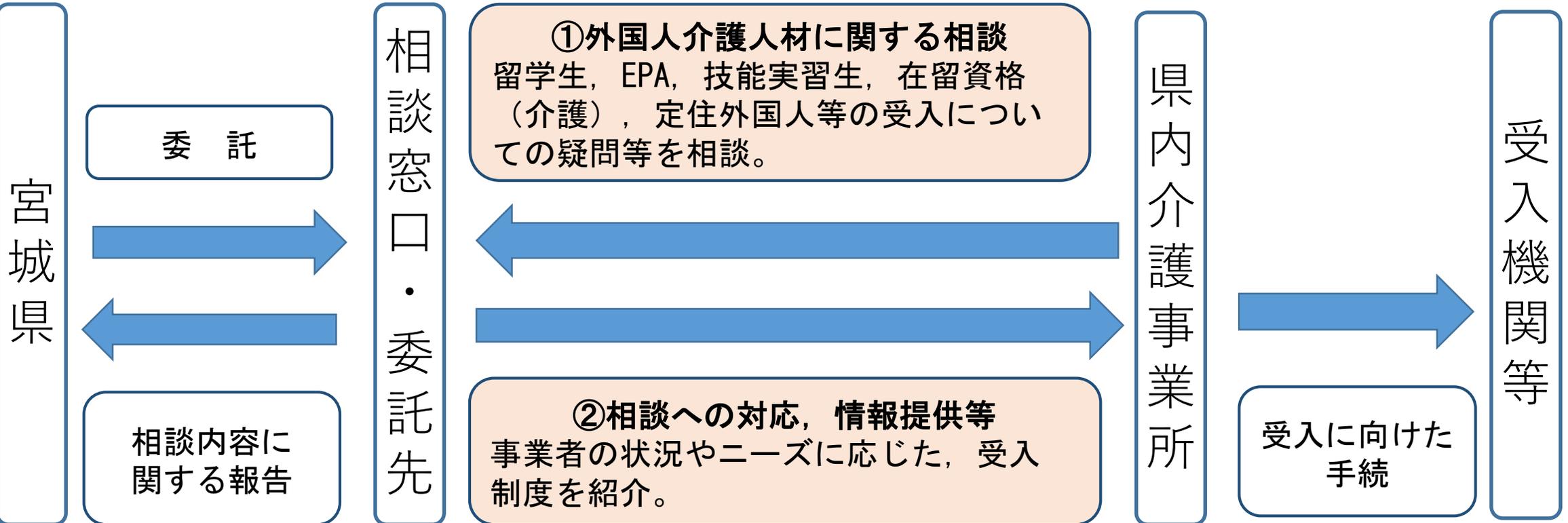
モデル介護事業所（施設）

- ・ 説明会を通じて地域の元気高齢者等を募集
 - ・ 就労マッチングにより3ヶ月間の雇用
 - ・ 職場OJT研修を通じて、介護助手として育成
- ※「介護助手」
シーツ交換、清掃、食事の配膳、片付け等
週3回、1日4時間程度勤務、

1 宮城県取組 ④外国人介護職員の受入等に関する相談・支援窓口

相談・支援窓口のイメージ

介護に特化した外国人窓口
設置は、神奈川県，岐阜県
など，ごく少数



令和元年度新規事業

- ・相談窓口の開設 (R1.8月～)
- ・セミナーの開催 (2回)
- ・現地見学会の開催 (ベトナム)

技能実習生受入へ

2 パイロット事業の実施概要

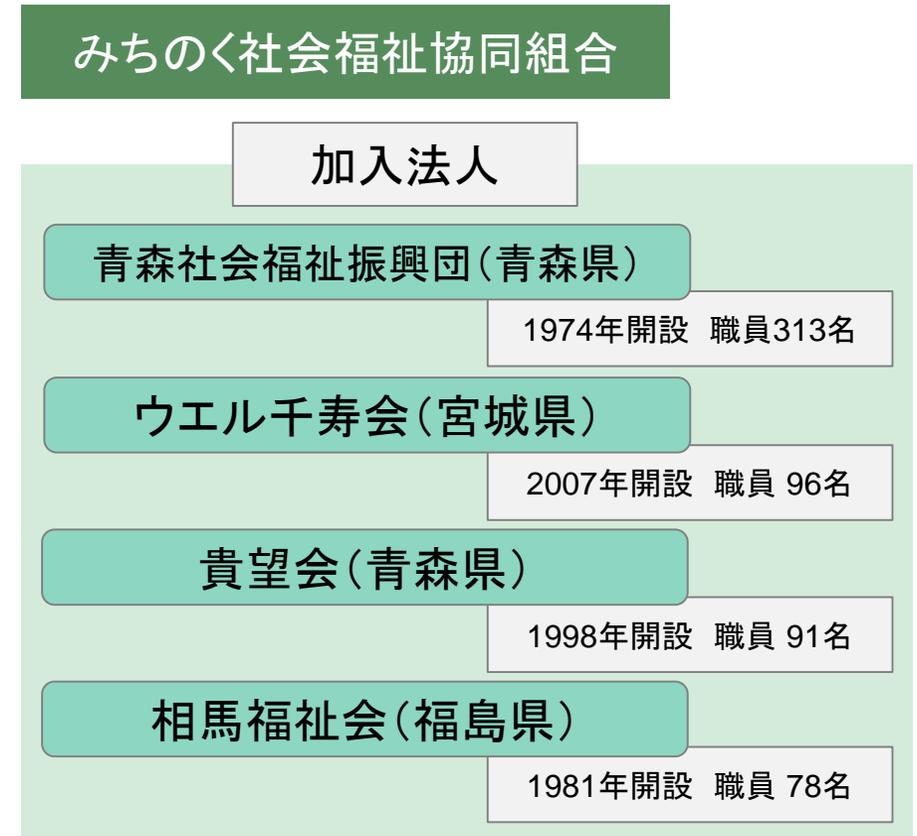
● 目的

協同組合の形態を生かしたマネジメントモデルの構築を試行した。

● 実施内容

外国人技能実習生の受入を目的として2019年6月に設立されたみちのく社会福祉協同組合の取組を活かし、以下を実施した。

- ① 物品調達の合理化，専門性の高い介護職員のキャリアパスの構築
- ② ICT機器を用いた業務効率化の実証，効果分析等



みちのく社会福祉協同組合の体制

2 パイロット事業の実施概要

● 実施体制

みちのく社会福祉協同組合に参加する4法人の施設長，シンクタンク，コンサルティング会社から構成される「施設長打合せ」を事業期間内に計5回開催した。

取組内容	担当	役割
①物品調達等の合理化，介護職員のキャリアパスモデルの構築	みちのく社会福祉協同組合	青森社会福祉振興団 協同組合加入法人
		ウエル千寿会 協同組合加入法人
		貴望会 協同組合加入法人
		相馬福祉会 協同組合加入法人
		事務局 協同組合事務局
		コンサルティング会社 キャリアパスモデル検討の取りまとめ等
②ICT機器を用いた業務効率化の実証，効果分析等		ウエル千寿会 実証事業対象施設
		ベンダー会社 インカム・シフト自動作成システムのベンダー
		コンサルティング会社 調査の集計・分析等

取組の実施体制及び役割

2 パイロット事業の実施概要

● 実施スケジュール

テーマ	実施項目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
宮城県介護人材確保協議会	会議の開催	★									★
	施設長打ち合わせの開催			★		★	★	★		★	
①物品調達等の合理化、介護職員のキャリアパスモデルの構築	実施事項の検討			←→							
	ヒアリング調査の実施					←→					
	ワークショップの実施						★	★	★	★	
	ヒアリング調査（物品調達）の実施							←→			
	結果のとりまとめ									←→	
②ICT機器を用いた業務効率化の実証，効果分析等（うち、インカムの導入）	現状分析・導入機器の検討				←→						
	研修会実施					←→					
	インカム導入						←→				
	効果検証の実施								←→		

2 パイロット事業の実施結果①物品調達等の合理化

● 目的

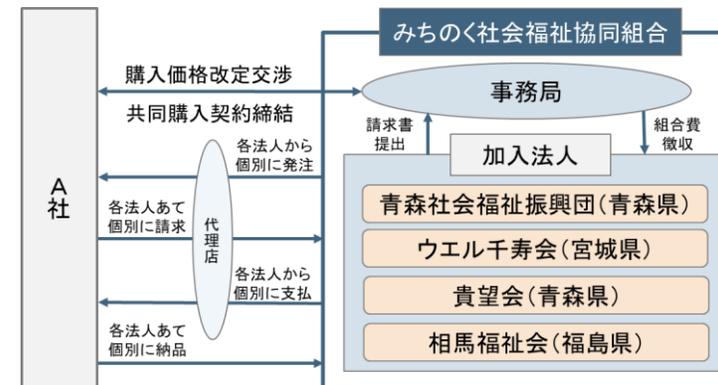
物品調達の合理化を念頭に、共同購入を検討する。

● 実施内容

1. 【品目の特定】共同購入できそうな項目のうち、使用頻度の高い「おむつ」を共同購入することに決定した。製品の選定にあたり、購入予定のおむつのサンプルを取り寄せ、現場で試用し、ケアの質が維持・向上できることを確認した上で決定した。
2. 【メーカーとの交渉】メーカーとの価格交渉を行い、統一価格を決定した。
3. 【購入プロセスの整理】これまでの調達プロセスを変更することなく、代理店を経由して発注、精算することにした。
4. 【費用対効果の測定】購入費用が2019年10月～2019年12月末の3か月間の金額ベースで前年同期比3割削減した。

分野	品目
エネルギー	・電気料金 ・灯油 ・ガス ・車両燃料（ガソリン、軽油）
固定資産 （リース、購入）	・ベット ・車両
消耗品	・手袋 ・マスク ・消毒液 等
保険料	・損害（火災）保険

物品調達における共同購入の項目（例）



共同購入のプロセス

2 パイロット事業の実施結果①介護職員のキャリアパスの構築

● 目的

各法人では、これまで管理職をゴールとしたキャリアパスしか存在していなかったため、高度な専門性を活かした介護職員のキャリアパスを検討することにした。

各法人で高度な専門性を保有する介護職員は現時点で1名程度しかおらず、今後こうした介護職員を育成していく上で必要な要件の整理(具体的には下図の専門1・2の要件)等を行うとともに、協同組合の中での育成方法や活躍の場の可能性についても検討することにした。

● 実施内容

1.【ヒアリング調査の実施】

参加4法人の人事制度(等級制度等)及び人材育成の状況を調査し、専門1・2として位置づけられる職員の等級の見通しを立てた。

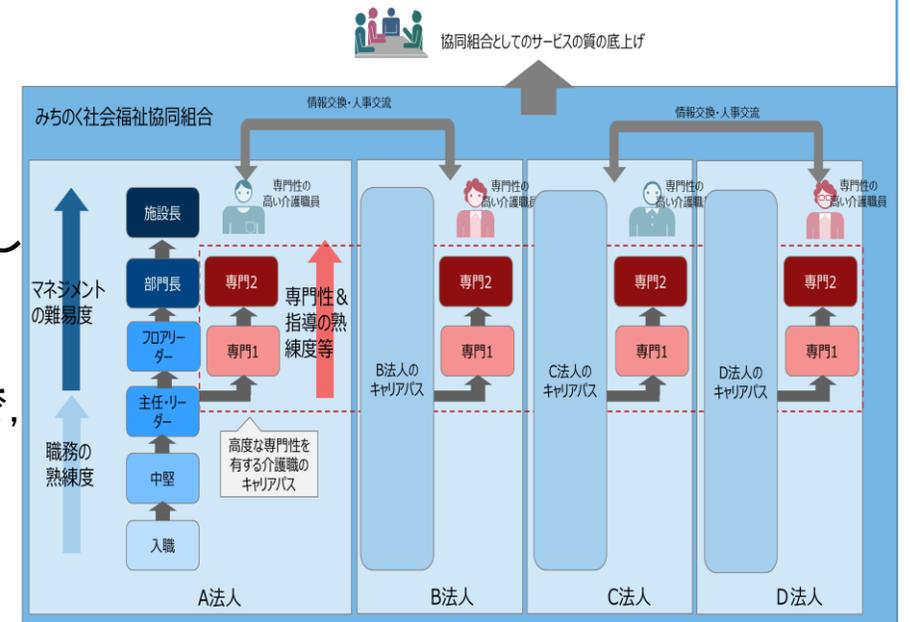
2.【ワークショップの開催】

参加法人からそれぞれ1名と組合事務局3名の計7名のメンバーで、2019年10月～12月にかけて4回のワークショップを開催した。

ワークショップでは、専門性の高い介護職員の優れた行動(コンピテンシー)を抽出し、そのために必要な資質や能力、スキル等について整理・分析した。

3.【要件の定義】

専門性の高い介護職員のキャリアパスの要素である、「求める人材像」「資格要件」「人材育成の方法」について取りまとめた。



高度な専門性を活かした介護職員のキャリアパスと組合内での活躍のイメージ

2 パイロット事業の実施結果

②ICT機器を用いた業務効率化の実証，効果分析等 (勤務シフト表自動作成システムの導入)

● 実証対象施設

社会福祉法人ウエル千寿会 萩の風

● 導入前の課題

常勤・非常勤職員が休日とシフトの希望を自由に申請できる柔軟な勤務体系にしているため、シフト調整が複雑になっていた。このため、1ヶ月に勤務表作成に担当者5名で合計2,320分(約39時間)を要していた。職員は配布される紙ベースの勤務表で自分のシフトを確認していた。

● 効果分析結果

- 職員はタブレット端末で自分のシフトをいつでも確認できるようになるとともに、シフト作成業務の時間削減により、利用者を見守る、利用者と会話する時間を増やすことができた。
- 勤怠管理とシステム連携することで、施設長は労働時間の把握・管理が容易になった。
- シフト作成担当者5名で実施していた1ヶ月のシフト作成業務時間が約4分の1削減された。



勤務表作成プロセスと効果

2 パイロット事業の実施結果

②ICT機器を用いた業務効率化の実証，効果分析等（インカムの導入）

- 実証対象施設

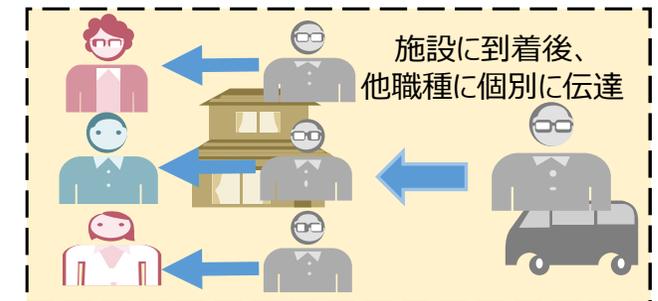
社会福祉法人ウエル千寿会 萩の風

- 導入前の課題

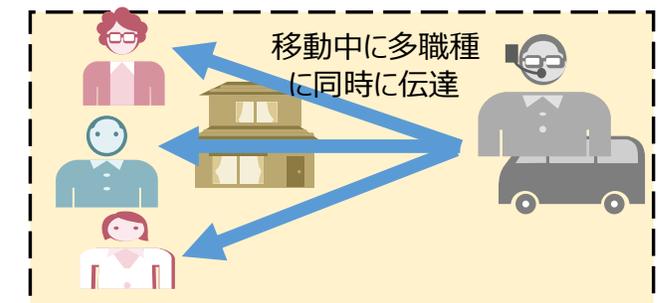
ショートステイ利用者の送迎時の申し送りにおいて、生活相談員と介護職員，看護職員，施設長の4名で一斉に情報共有することが困難だったため、情報共有のタイミングとスピードに課題を抱えていた。また、申し送りが長引くことによって送迎スケジュールの遅延を招いていた。

- 効果分析結果

- 送迎の出発・到着時刻や利用者の申し送り(体調，日課の変化，処置の仕方，トラブルの懸念等)が充実し，ショートステイ利用者へのケアの質が向上した。
- ショートステイの初日や最終日に行っていた複数の職員間の申し送りが一斉に行えるようになり，時間の短縮によって送迎スケジュールの遅れが改善した。



インカム導入前



インカム導入後

3 今後の協同組合の取組の方向性

- みちのく社会福祉協同組合では、利用者の自立支援、生活の質向上と、職員の夜勤業務の改善、働き方改革、人材育成と定着化を念頭に、今後は、全加入法人が協働で取り組む「安眠プロジェクト」に着手する。同プロジェクトの中でICT機器導入、業務の標準化等を進め、介護現場の革新、介護の労働生産性向上を図り、介護現場を根底から変える取組をさらに加速していく。